

今月のことば

ともに
正しいことも
あれば
間違っていることも
ある
凡夫である

(小池秀章)

龍谷大学非常勤講師

小池秀章 こいけひであき

聖徳太子は、仏教を根底として、日本を平和な世の中にしようとした方だと思います。それは、『憲法十七条』第一条に、「和を以て貴しとなす」とあり、第二条に「篤く三宝を敬え。三宝とは仏・法・僧なり」とあることから、うかがえます。

しかし、聖徳太子は、日本を平和な世の中にするために、「みんな仏教を学んで、立派な人になりなさい」と言われていたのではないと思います。第十条に、

「我かならず聖なるにあらず、彼かならず愚かなるにあらず。ともにこれ凡夫ならくのみ」

とあります。私（我）が、いつも正しい立派な人間であるわけではなく、私以外の人（彼）が、いつも間違っている愚かな人間であるわけでもない。ともに正しいこともあれば間違っていることもある、平凡な人間であるということです。

つまり、仏教を通して、「ともに凡夫である」ということに、気づかされるところにこそ、平和な世の中に向かう道が開けてくると、考えていたのだと思われます。

親鸞聖人は、この「凡夫」を、「ただひと」（平凡な人間）ではなく、「ほんぶ」と読み、「煩惱具足の凡夫」、つまり、「煩惱が充分具わっている愚かな人間」という意味で使われています。そして、その凡夫とは、「仏さまの教えを聞いて明らかにした自らの姿である」と、受け取っておられるのです。そのことも、忘れてはならないと思います。

合掌